不妊治療と漢方

漢方は体のバランスを整えるサポート隊！

Q. 病院の治療を受けていても
相談できますか？

A.できます。

病院の治療をサポートしたり、治療の負担を軽減するフォローなども中医学の得意分野です。

漢方薬剤師：石井

西洋医学

[不妊検査]

生理周期に合わせて、ホルモンの状態をチェックし、不妊の原因を探っていきます。まずは、子宮や卵巣の状態、病気の有無を内診・超音波検査でチェック。月経周期や排卵の有無の確認に役立つため、初診時には基礎体温表（2～3ヶ月つけたもの）を持参するのがベターです。血液検査によるホルモン量のチェックや卵管造営検査なども行われるため、検査のための通院は最低3回くらいになります。

不妊の原因が男性にもあるかどうかを確認するために、精子の量や濃度、運動率などをチェックしていきます。

[タイミング療法]

超音波（エコー）検査で卵胞の大きさや子宮内膜の状態を確認したり、血液検査や尿検査でホルモン値をチェックしたうえで、排卵日を予測し、医師の指示のもとタイミング（セックス）をとる方法です。内服薬やホルモン注射を使って、排卵を促し妊娠率を向上させることもあります。

[排卵誘発剤]

排卵そのものがないとき、排卵が起こりにくいとき、また排卵があっても卵の数を増やして妊娠率をアップさせたいときに使われる薬です。人工授精や体外受精など、高度な不妊治療でも使われます。飲み薬と注射があり、治療法やホルモン値などから、その人に合ったものを選びます。

[人工授精]

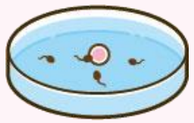
排卵のタイミングに合わせて採取した精液を洗浄・選別したあと、子宮の奥に直接送り込む方法です。体外受精と混同する人も多く、その名前から人為的な操作をイメージしがちですが、子宮内に入るプロセスが人工的なだけで、受精・着床などの流れは、自然妊娠と同じです。

精子の数が少ない、運動率が低い、射精できないなど男性側に原因がある場合、また、夫婦ともに原因がないのに妊娠していないケースに用いられます。

[体外授精（IVF）・顕微授精（ICCI)]

生殖補助医療（ART)と呼ばれる治療です。
まず卵子と精子を体外に取り出します。卵巣を刺激して卵を育て、膣から針を刺して卵を採取します。
〇体外受精：卵子に採取した精子をふりかけて容器の中で受精させます。
〇顕微授精では、卵子に採取した精子を直接注入し、受精させます。男性不妊や受精障害の場合や成功率を上げる場合などに行います。

卵子採卵後、2～3日後に順調に育った受精卵を子宮に戻し（胚移植）、無事に着床すれば妊娠が成立します。たくさんの胚（受精卵）があるときは凍結して、その後の治療に生かすこともできます。



中医学

Step 1

体質を見て、体を正常に保つ！

[特に原因が見つからない機能性不妊]

不妊検査の結果、どこにも異常がないのに妊娠しないケースを「機能性不妊」といいます。西洋医学的には問題がなくても、中医学的にみると、体のバランスが乱れていることがあります。漢方で体質を改善することで、体本来がもつ生殖能力を高め、自然妊娠しやすい体に整えていきます。初めに使われることが多い漢方薬として、体をめぐるエネルギーである「気」と、体に栄養とうるおいを与える血の巡りを良くする補気・補血薬 があります。

[子宮や卵巣の病気が見つかった器質性不妊]

卵管狭窄や卵管閉塞、またポリープや子宮筋腫、子宮内膜症など、何らかのトラブルがあるケースを「器質性不妊」といいます。この場合、西洋医学の治療を行いながら漢方薬を併用することも可能です。たとえば、子宮筋腫の場合、漢方では血の巡りが悪い「瘀血」が深くかかわっていると考え活血薬を用います。卵管狭窄の場合、水の巡りや質が悪い「痰湿」と考え、利湿・利痰薬を用いることがあります。

Step 2

体のバランスを整え、受精卵の質を高める！

[自然周期の場合]

タイミング療法を行っている場合は、できるだけ質のよい卵子や精子を育てる体づくりをめざします。卵巣機能やホルモンバランスをつかさどる腎を補う漢方薬や、血を増やし卵子や受精卵、子宮内膜に十分な栄養を与えるための補血薬などを使います。男性側も生殖機能をつかさどる腎の働きを高める漢方薬を使い、精子の数を増やし、精子の運動率を高めていきます。

[排卵誘発剤を使用する場合]

排卵誘発剤を使い続けると、おりものが減る、基礎体温が上がる、子宮内膜が薄くなるといった症状があらわれることがあります。中医学的に、このような状態は体のうるおい（陰）が消耗して熱がこもっている「陰虚」に傾いていると考えます。崩れたバランスを戻すため、体内にうるおいを与えながら熱を取り除く補腎陰薬や清熱解毒薬をよく用います。また血の巡りを改善する補気・理気・活血薬なども併用します。

Step 3

それぞれの問題点によりアプローチし、体の総合力を高めます！

[女性の場合]

人工授精や体外受精を選択する要因のひとつとして「抗精子抗体」が挙げられます。精子に対する抗体ができてしまい、受精を阻害してしまうというものです。クラミジアなどの卵管の炎症によるものの他、原因がわからず起こるケースもあります。クラミジアなどの性感染症の場合には抗生物質を服用します。中医学的には免疫機能にもかかわる腎の働きを高めたり、 免疫そのものを整える茸製剤などを使います。

[男性の場合]

男性側に抗精子抗体がある場合は、体質によって体のうるおいを補う補腎陰薬や免疫を補う補気薬を使います。
また元気な精子の数を増やし、運動率を高めるためにも、補腎薬や古くから中国で男性不妊に使われてきた魚の浮袋をベースにした食品などを使います。

Step 4

[3つの段階に分けて考えます]

◆準備段階（排卵誘発剤の使用なし）
西洋医学では卵巣機能の調節を目的に「カウフマン療法」などが行われます。しかし、ホルモン剤の服用後は血の巡りの悪い「瘀血」になりやすくなります。中医学としては、質の良い卵が成長し、スムーズに排卵できるよう準備をしつつ、血の巡りを良くする活血薬を併用し卵巣機能や子宮内膜の状態を安定できるようサポートします。

◆排卵誘発剤の使用～胚の移植まで
排卵誘発剤には、大きく分けてのみ薬と注射がありますが、注射は作用が強く、副作用も出やすくなります。おなかの張りや痛みがあるときは、漢方的にみると「水湿（水が溜まっている状態）」や「瘀血」になっています。また、胚の移植前には、より子宮内膜の状態を整え、出血を抑えるために補血・活血・止血などを作用がある漢方を使います。

◆胚の移植後
胚の移植はスムーズに着床できるよう、また、着床後の流産を予防するための漢方薬を使います。その際は妊娠経過に支障のない漢方薬を選んで使います。また、胚の移植を行わないときも、採卵後は「血」のめぐりが悪い「瘀血」になりやすいので卵巣を回復させる漢方薬を用います。

子宝相談を受けられる方へ

【婦人科担当薬剤師 石井雅代】へご予約をお願いいたします。
持ち物：基礎体温表、おくすり手帳、各検査の結果　初回問診時間：60分程度
基本的な生理周期の他、食事、睡眠、排泄などの生活習慣についてもお尋ねします。

漢方相談専用のホームページも
ご覧ください

スマホ・パソコンからOK!
ネット予約が便利です。

カラダも一日にして成らず　Vol.22

8月下旬、次男が左手首を骨折しました。まだ保育園にも登園できておりません。

お店に立てる時間が少なくなってしまい、ご迷惑をお掛けしていると共に、お便りも遅くなってしまい、重ねてお詫び申し上げます。

10月中旬には、日常が戻っていると思います。それまでは、ご予約にて対応させていただきますので、まずは店舗にお問合せください。宜しくお願い申し上げます。